

委員会報告

総務文教常任委員会

(条例等における主な質疑・応答)

問 新年度からの行政組織の改正において、児童福祉も含めた子育て支援の関係事務が教育委員会に移るのか。

答 現在の子育て支援室にある子育て支援係と親子健康係の事務が教育委員会に移り、児童福祉関係も教育委員会に移る。

問 使用料の減免基準について、市長が認める場合とは、どのようなものがあるのか。

答 個々の事例については、実態等を把握しながら企画財政課でまとめ、基準表を作ったので、それに沿って対応していきたい。

(補正予算における主な質疑・応答)

問 退職手当の財源は、退職基金からではなく、一般財源で措置しているのか。

答 退職手当については、まず一般財源を充当し、どうしても一般財源が充当できないときに、退職手当基金を充当するという考え方でやっている。今回は、まだ一般財源、留保財源が少しあるので、今のところ退職手当基金はそのままという状況である。

問 木浦小学校の校舎改修が平成24年度の予定であるが、見通しはどうか。

答 木浦小学校の校舎については、当初、耐震強度が不足していると想定していたが、現時点では、耐震上の強度不足は無いという判定であった。老朽化している部分の改修等をしたという気持ちはあるが、中期プラン等の中で検討していかねばならないということもあり、明言できない。



建設産業常任委員会

(条例等における主な質疑・応答)

問 ガス料金について、帝国石油の値上げの方針に対する担当課としての交渉経過は。

答 輸入LNGの導入により値上げになるということで、今までも直江津にLNG基地ができるまで100パーセント国産ではないかという点で、この時点での値上げについては反対し、交渉してきた。ただ、国産ガスの割合が減少し、ほとんどを輸入LNGによる天然ガス供給となっている現状で、糸魚川市としても将来的に考えれば得策ではないかという判断で値上げについて認めた。

(補正予算における主な質疑・応答)

問 企業の借り入れ状況はどうか。

答 景気対策資金は借り換えも含めて、今現在で今年度は140件である。経済対策を行ってきたが、当初の見込みをはるかに超える依然厳しい状況という認識である。

問 糸魚川バスと頸城バスの補助金について、企業努力をしたけれども赤字が多くなったということ、今後バス会社の赤字はずっと補てんする考えなのか。

答 今後の運行経費については、バス路線の全体的な再編や、効率的な運行等について、今後も糸魚川バスと連携をとりながら改善をしていきたい。路線バスの赤字については、補てんをしていくという基本的な考えは今までもおりである。

問 新幹線の停車本数について、上越市より事業費負担が多い糸魚川市の方に停車本数が多くなってしかるべきだと思うが、ちゃんと要求しているのか。

答 停車本数については、知事にも現在より利便性が向上するように要望している。



市民厚生常任委員会

(条例等における主な質疑・応答)

問 合併処理浄化槽等が増えることにより、し尿くみ取り手数料をどこまで値上げするのか。

答 くみ取り量もくみ取り手数料も減少すると考えており、くみ取り量が少なくなることにより、単価が高くなるおそれがあるが、現時点で市としては、財源をくみ取り手数料で賄っていくという考えである。

(補正予算における主な質疑・応答)

問 市営保育所の正職員と臨時職員の割合はどうなっているのか。

答 現状は6対4から7対3の割合で臨時職員が多い。乳児等の未満児が増えているので、職員数が必要になる。基本的には7対3割合は正職員にしたいと考えているが、行政改革の関係もあるので、最低でも5対5か6対4の割合で正職員を増やしたい方向で考えている。

